

施策・基本事業評価表

優先度：成果＝高。財源＝低。●上下水道課

番号	施策名	施策の対象	施策のねらい	区分	施策の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等	
1-2	下排水処理施設 などの整備	○市民・事業所 ○河川 ○水生生物	公共用水域の水質が改善され、快適で衛生的な生活環境になっている。	成果	河川水質の環境基準適合度 (mg/l) ※水系別での過去3年間平均BOD値												横ばい	平成24年度実績は、前年度より水質的にやや悪化した結果となった。これは、昨年の北部九州豪雨による河川の氾濫及び復旧工事等により、河川の自然浄化能力の低下によるものと考えられる。	工事においては、コスト削減のための新工法・新材料等を積極的に検討し採用する。また、効率的な面整備事業を行うことにより、下水道処理区域内人口の増加を図り、下水道への接続率の向上を目指す。
					山ノ井川 5月～9月	1.8	1.8	1.8	1.2	1.1	1.4	1.7	1.6	2.6	1.2				
					10月～4月	2.4	2.3	2.2	1.8	1.2	2.0	1.9	2.0	2.0	2.0				
					花宗川 5月～9月	1.4	1.3	1.3	1.0	1.0	1.1	1.0	1.2	1.3	1.0				
					10月～4月	4.1	3.5	1.6	1.0	0.8	1.1	0.7	3.0	1.2	1.1				
					倉目川 5月～9月	3.5	3.4	3.2	4.4	3.1	3.0	4.4	3.0	3.1	3.0				
10月～4月	14.4	12.3	11.1	7.9	4.6	4.1	4.8	10.0	5.6	4.1									

番号	基本事業名称	基本事業の対象	基本事業のねらい	区分	基本事業の成果指標	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	前期 目標値	24年度	28年度 (目標値)	評価	評価の判定理由と原因分析の説明	今後の取り組み等
01	公共下水道整備推進	認可区域内の住民	下水道施設が整備され、生活雑排水や事業所排水が適切に処理される環境が整っている。	成果	下水道整備進捗率 (%)	26.7	29.1	30.2	32.5	33.1	35.6	36.6	36.0	37.5	43.0	横ばい	平成24年度の進捗率の伸びは、前年より0.9ポイントとなり、例年に比べ事業の進捗が図れなかった。これは、西牟田地区の整備最終年度であったため、整備区域が限定されたためである。	財政状況の厳しい中、工事のコスト削減、効率化を積極的に行うことにより、事業の進捗を図る。また、拡大した74haの計画区域を、平成31年度までに整備が完了するよう計画的な事業を実施する。
				成果	下水道普及率 (%)	0.0	18.4	22.1	23.0	25.0	27.7	28.6	27.4	28.8	33.0	横ばい	前段の指標と同様に、西牟田地区の整備最終年度であり、普及率も前年に比べ0.2ポイントの伸びとなった。	拡大した計画区域の整備を効率的に行うことにより、処理区域内人口の増加を図る。
02	汚水処理施設の維持管理	下水道施設	下水道施設が適切に管理され、汚水処理機能が維持されている。	成果	下水道施設の維持管理上のトラブル件数(件)	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	目標達成	施設の定期的な点検・メンテナンスにより、トラブルの発生は目標値を達成している。	今後も施設の維持管理を徹底することにより、トラブルの発生を未然に防いでいく。
				成果	矢部川浄化センターの放流水の水質(BOD値)(mg/l)	—	1.5	1.1	1.0	0.8	0.6	0.7	1.8	0.7	8.0	目標達成	処理場での汚水処理に対する徹底した管理が行われたことにより、処理場処理水の認可数値である8.0mg/l以下を達成している。	下水道排水基準を順守するため、事業所排水の水質検査を適切に行う。
03	水洗化の普及促進	供用開始区域内の住民	下水道への接続が促進され、家庭や事業所排水の水質が改善し放流されている。	成果	水洗化率 (%)	0.0	9.8	44.8	56.7	59.8	61.4	65.0	63.2	65.7	72.5	不調	前年からの伸びが0.7ポイントと低迷している。要因としては、西牟田地区の最終年度で処理区域内人口の増加が少なかったこと。また未接続世帯における、下水道接続費用の負担が困難な高齢者世帯、低所得者世帯の割合が増加していることが考えられる。	未接続世帯への下水道接続推進を図るため、電話、戸別訪問など繰り返し行っていく。また、下水道展の開催、環境フェスタへの参加等により、下水道の必要性を訴え、接続向上へ向けての活動を行っていく。